

上原城

～諏訪姫と人の夢の儂さを訪ねて～

訪問日 2023/8/2

- 所在

長野県茅野市（諏訪市じゃないんよね）

図1は上川にかかる江川橋から見た上原城周辺の遠望である。



- 遺跡概要

土塁などが多少見て取れる程度。

夏季には草木が生い茂り、その土塁などすらも確認することが難しくなる。そのため、時季を選ぶことをお勧めする。（あと夏は暑すぎる）

図1. 江川橋から見る遠望。左上の赤丸に上原城跡が位置している（と思われる。ごめん。。。）。右下の場所に諏訪氏館跡がある。

- 登城路

上っていく道は主に二つ？あるようだ。一つは図2の左の車道である。つまり車でも行ける。上りやすいが、趣がない。もう一つは図2の右の写真の山道である。こちらは正統派だが、道があるかすら、わからない。迷うかも知らん。今回は夏であり、草木が生い茂っていて見通しが悪く、迷子の危険性があると判断し、左の車道から行った。趣はないが安全第一。



図2. 左・車道。車で行けるとは…なんとも…。右・正規の登城路。これはやばい気がする…。右下・車道を上がっていくと、途中に集団墓地がある。まあ、人が住むには山奥過ぎるしね。



● 上原城跡

車道を登りきると、いよいよ本命の城跡にたどり着ける。どちらかというとな城の「裏」な気がするが、まあ、仕方ない。図3の左の看板から左奥は全て元々上原城があった場所となる。ただの丘にしか見えないがそこでイメージ力を発揮できないあなたは、山城初心者といったところだ。別にオレも玄人ではないがな。



図 3. 左・上原城の看板。この左奥の部分が城のあった場所。右上・説明看板。右下・車両侵入防止の下馬下乗。とりあえず歩け、不届き者め。

主要部分は、主郭と二の郭、物見石、三の郭となっている。それぞれの図を以下に示す。図6の看板を読むに、どうやら主要な部分意外にも、麓の方まで何重にも郭が張り巡らされていたようだ。もう少し見晴らしのいい時季に出直したいと考える。



図 4. 左・三の郭。神社がある。(こんぴらだったけ?) 写真右奥にはなんか風流な池みたいなのがある。右・二の郭と三の郭の間にある物見石。その名の通りこの上から物見をするのだろう。(登ってはいけない。知らんけど。でも遺跡は大事にしなきゃいかんけん妥当な判断。) 写真からは全く伝わらないが、結構デカイぞ。



図 5. 左・二の郭。可愛らしい広場という感じ。まあ、それ以上でも以下でもないが。右・主郭。草木が生い茂っている。



図 6. 主郭にある看板。どうやら主要な郭は以上の三つのようなだが、小さい郭が麓の館まで何重にも張り巡らされていたようだ。草木が邪魔である。ううむ。これは別の時季に出直したいものだ。

● まとめ

真夏に訪ねた諏訪の空は青かった。山々を染める木々は蒼かった。青と蒼の違いなど気にするな。注目したいのは、その「あおさ」にオレが感じた大きな流れであり、自然の営みだ。人の願いが描いた軌跡など、草木の影にすらかなわない。大自然の中に、時とともに消えゆく人の夢を、儂さと呼ぶのなら、今もう一度この手で触れてみよう。

歴史を変えることなどできはしない。できることを望みもしない。ただ、知って、そこに触れて、そして、自分自身をもう一度見つめ直す。その先に見えてくるものこそが、人生をほんの少し、今より鮮やかにしてくれるはずと信じている。

著者・林慎太郎

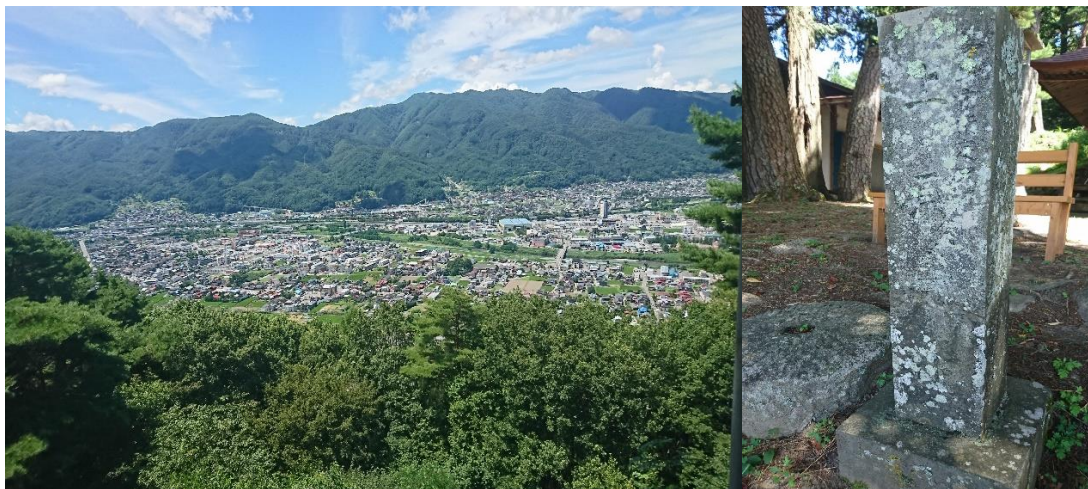


図 7. 上・三の郭にある鳥居越しに見た街並み（茅野市）。左下・もちょっと街に寄った画角。圧巻の眺めである。ここが諏訪氏、そして武田氏の諏訪支配の拠点となったことにもうなずける。右下・上の写真の鳥居横にある石碑。



図 8. 上原城案内図。